

# 『企業の奴隷』強いる小集団活動 粉砕



87. 7. 14  
No. 2601

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

## 臨時委員会で闘う方針確立へ(3)

当局は、労務政策の最大の柱として国鉄労働者を「小集団活動」に組織して、国鉄労働者の闘う意識をぬぐいさり、労働組合を解体することに血眼になっている。「自主的」にタダ働きを強要し、労働者の心まで支配しようとする「小集団活動」を絶対に拒否し、粉砕しなければならない。

### 狙いは労働組合解体だ

この「小集団」とは「分割・民営化」攻撃の嵐の中で組合潰しのために開始されたもので、企業人教育受講者や動労革マル、鉄労などによって組織されたものである。

そして、この「小集団」の最大の狙いは、労働者を「企業戦士」「企業の奴隷」にしたあげ、そのことをもって労働組合を内部から解体しようとするものなのだ。

もし、この「小集団」を認め許すならば、労働者同志は無限に蹴落とし合い、資本や当局のために無制限に骨身を削って働き、本当に奴隷のようになってしまうのだ。絶対に粉砕しなければならない。

### 結局はボロボロで使い捨て

今、「小集団」の名のもとに膨大なタダ働きが行われている。非休・公休返上でオレンジカード販売、環境美化・ペン

キ塗り、企画商品のセトルスなど、どれだけ当局に忠誠をつくしたのか、増収につとめたかを競い合わせ、いずれは勤務成績に反映させ、労働者の団結を崩そうとしているのだ。

しかし、いくら会社に忠誠を誓い、ボロボロになって尽くしたところで、結局は使い捨てにされてしまうのだ。現在、全産業にわたる数百万人におよぶ大量首切り、失業という実態がそのことをよく現わしている。

### 全ては闘う以外に守れない スト体制確立へ！

つまり、労働者と資本は絶対に相入れない対立関係にある以上、生活、権利、職場、さらに、労働者としての誇りや団結も闘うことによってしか守れないのだ。

「小集団」粉砕の闘いはその一歩だ。臨時委員会に全力で結集し、ストライキを闘う体制を絶対に確立しよう。

## 当局、私服で特急に添乗%？ 職権濫用だ！

六月六日、七日の両日、千葉運行部の幹部二名が私服で銚子の乗務員が運転する特急の運転室に乗りこんできた。

これはあまりにもおかしいと思った当該乗務員が当直助役に抗議したところ、仕事を終えて銚子運転区に帰ったら「新会社では乗務員を指導し、監督する立場の者は、社員証を携帯、または名札を着用すれば私服でも運転台に添乗してもよい」という掲示が貼られていた。

これこそ、まさに職権濫用だ。当局に都合のいいように規程を変える。こんなフザケた話があるだろうか！ つい三ヶ月前までは、

「乗客の目があるから制服出勤もまかりならん」といつていた当局は、新会社は指導し、監督する立場であれば私服添乗もいいというのである。

当局の不当・無法を許さず、いざ反撃へ！ 全力でたたかおう！